



ここでの深呼吸
までら

真

言宗須磨寺派の本山。仁和二年(八八六年)に圓鏡上人が勅命を受けて、当地に聖觀世音菩薩像を本尊として奉祀したのが始まりとされる。正式名は上野山福祥寺であるが、古くから「須磨寺」の通称で親しまれてきた。平敦盛遺愛の青葉の笛や弁慶の鐘、さらに敦盛首塚や義経腰掛の松など、多数の重宝や史跡があり、「源平ゆかりの古刹」として全国的に知られている。古来より源平の浪漫を偲んで訪れる文人墨客も数多く、広い境内のあちこちに句碑・歌碑が点在している。



■源平の庭②

一ノ谷での平敦盛と熊谷直実の一騎討ちの場面を再現した庭。直実に討たれた敦盛の話は平家物語の中で最も悲しく、われを誘う物語として名高い。

宝物館 源平ゆかりの宝物や歴史的遺物を展示

■青葉の笛

源平一ノ谷の合戦で熊谷直実に討たれた平敦盛が、肌身につけていた愛用の笛。古来より須磨寺の代表的な宝物として知られている。



■弁慶の鐘

「弁慶のつり鐘」として親しまれている銅鐘。一ノ谷の合戦の時、弁慶が安養寺からこの鐘を長刀の先に掛けて担いできて、陣鐘の代用にしたといわれる。

■一絃琴(須磨琴)

在原行平が須磨の地に流された時に創始した琴。一枚の板に一本の弦を張っただけの珍しい一絃琴。予約すれば、演奏を聞くことができる。

〈須磨寺周辺・交通のご案内〉

- 徒歩／山陽・阪神「須磨寺駅」より北へ5分。
市バス「天神下」より北へ12分、JR「須磨駅」より北へ12分。
- バス・乗用車／国道2号線より標識に従い、千守川筋を経て北上。高速道路の場合、東より阪神高速月見山ランプ、または西より第2神明高速須磨ランプを経て旧神明道路へ出てからトンネル越えてすぐ。

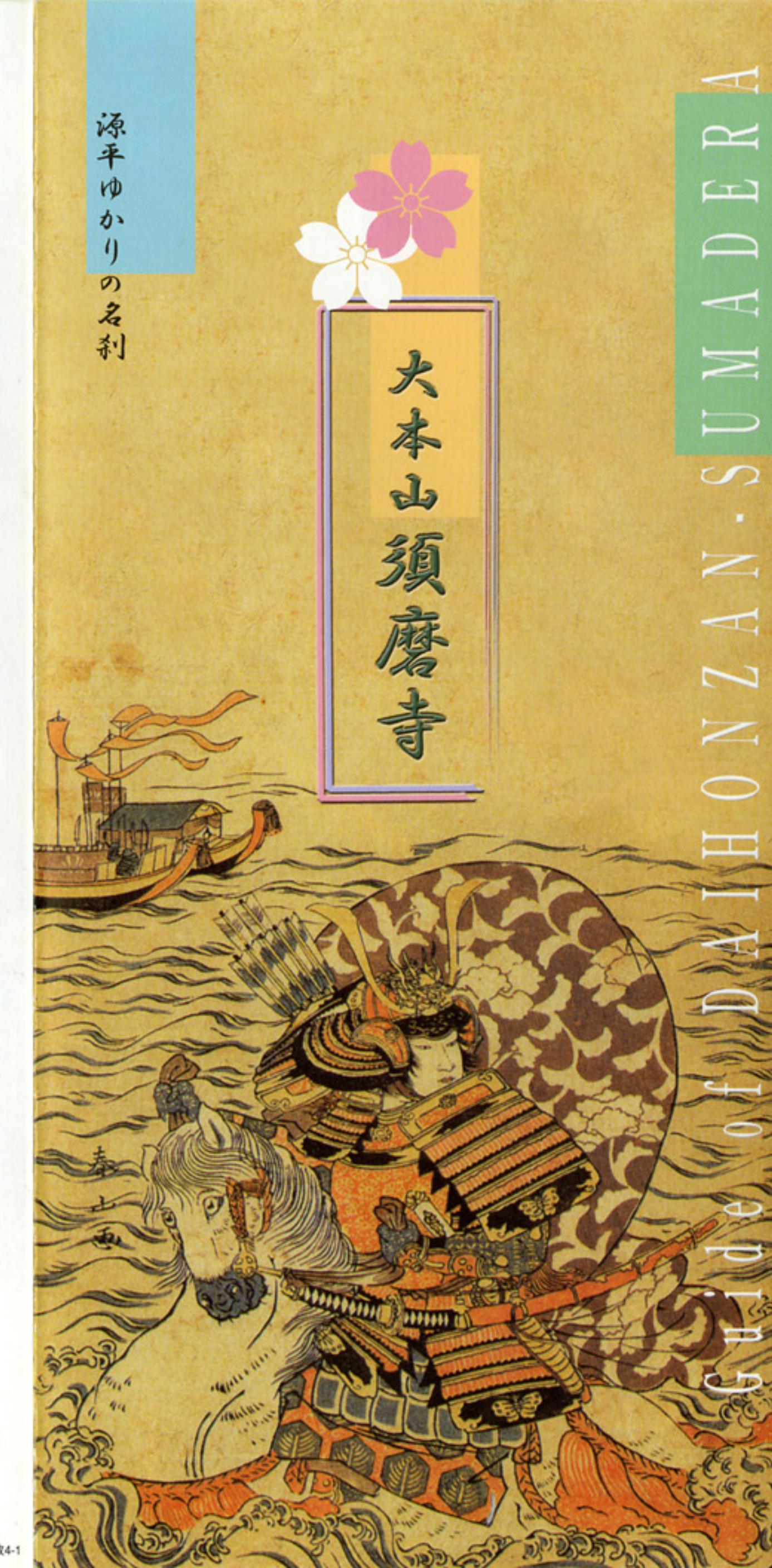


大本山須磨寺

(上野山福祥寺)

〒654-0071 神戸市須磨区須磨寺町4丁目6-8
078-731-0416(代) テレホン法話 078-732-5800
ホームページ <http://www.sumadera.or.jp/>

青葉殿 078-731-1213



源平ゆかりの名刹

大本山須磨寺

悠久の時を超えて、歴史の浪漫が薫りたつ……

■本堂①
開創当時は、在原行平が参籠して、勅勅を許されたと伝えられる。現在の本堂は慶長7年(1602)に豊臣秀頼が再建したもの。ただし、内陣の宮殿は応安元年(1368)の建造で重要な文化財である。本尊は聖觀世音菩薩。



いにしえの面影を今に伝える古刹——須磨寺。

■三重塔③

弘法大師1150年忌、平敦盛800年忌、当時開創1100年を記念して昭和59年(1984)に再建された。旧塔は400年前の文禄大地震の際に倒壊。



【平敦盛の首塚】④

かつてここに笛を奉納して子供の健康を祈る風習があった。ちなみに一ノ谷の敦盛塚は胸塚である。



【芭蕉句碑】⑤

「須磨寺やふかぬ笛きく木下間」「茨の小文」の旅で当寺に詣でた折の句。昭和43年佐野千遊が建て、字を橋間石が書く。

【真鍋豊平歌碑】⑥

「ひとすじに心こめたことなれば千代のしらべもたえじとぞおもふ」豊平は一絃琴大成の名人で全国を廻って数多くの門弟を指導した。



【桜寿院】⑦

塔頭三院の一つで本尊は阿弥陀如来。平成7年(1995)に阪神淡路大震災で倒壊。平成13年(2001)に再建された。



宗祖弘法大師が祀られており、須磨のお大師さんとして毎月の縁日には多くの参拝客で賑わう。



【尾崎放哉句碑】⑯

「こんな良い月をひとりで見て寝る」放哉は放浪の自由律の俳人。大正末期、大師堂の堂守として9ヶ月余りを過ごした。

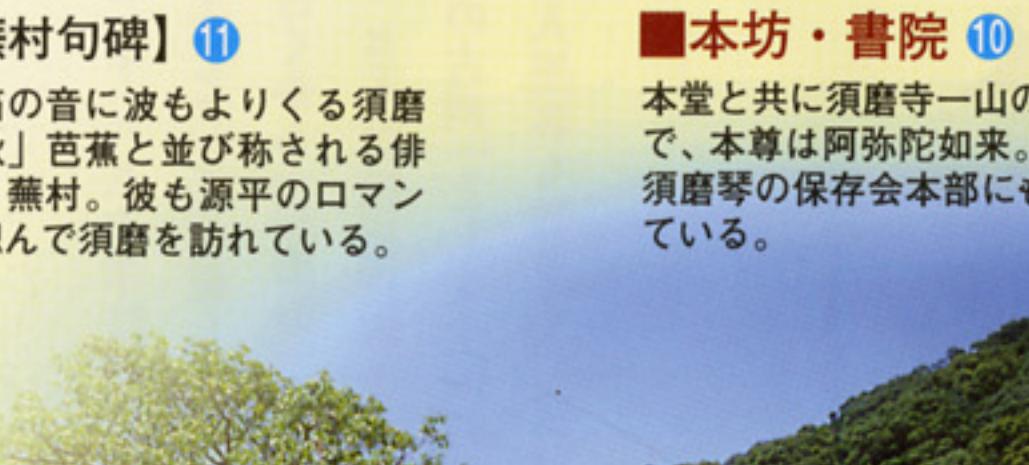


■蓮生院⑯

塔頭三院の一つで、本尊は不動明王。平成7年(1995)に阪神淡路大震災で倒壊。平成18年(2006)に再建された。

【芭翁句碑】⑯

「笛の音に波もよりくる須磨の秋」芭翁と並び称される俳人・芭翁。彼も源平の口マンを唄んで須磨を訪れている。



■本坊・書院⑯

本堂と共に須磨寺一山の中心で、本尊は阿弥陀如来。一絃須磨琴の保存会本部にもなっている。

